

演劇

舞踏

アドバイザー

市民芸術館「監督団」設置へ

検討委が答申

まつもと市民芸術館(松本市深志3)の次期芸術監督の候補者などを検討する「芸術監督制」の検討委員会は26日、臥雲義尚市長に答申書を提出した。「演劇」と「舞踏」を専門とする芸術監督2人と、劇場や地域の魅力を発信するアドバイザー1人の計3人からなる「芸術監督団」の設置を示した。検討委が選考した芸術監督団の候補者3人(非公表)が推薦され、市が5月中をめどに発表する。本年度は準備期間とし、来年度に正式に就任する見通し。

(田子元気)



臥雲市長に答申書を手渡す青山委員長(左)

検討委員会の青山織

人委員長(市芸術文化

振興財団理事長)が市

役所を訪れ、臥雲市長

に答申書を手渡した。

市から諮問された▽市

民芸術館の方向性▽あ

るべき姿を具現化する

「芸術監督制」▽芸術

監督候補者の選定に

ついての検討結果を示

した。

芸術監督は「次世代

を担う人材」を選考基

準とし、任期は1期3

年・最長2期を上限と

することを提案した。

就任までの準備期間を

設け、来年3月までは

「参与」として雇用契

約を結ぶ。役割と責任

を明確にする「職務記

述書」を毎年公表する

ことも加えた。

青山委員長は芸術監

督の分野を「演劇」

「舞踏」とした理由に

ついて「演劇は(3月

に総監督を退任した)

串田さんの延長線にあ

る。舞踏はブレイクダ

ンスが五輪種目になる

などダンスの注目度が

高く、松本市の個性と

に至ったという。

芸術館の方向性に

ついては、質の高い水準

の芸術文化を創造・観

賞する場を目指すこと

や、館外に出向くアウ

トリーチに力を入れて

次代を担う子どもに必

要な力を養う場とする

五つの柱が示された。

臥雲市長は「答申内容

を最大限に尊重した

いと述べた。